

開け！胡麻

図書館長 坂本重武

ちょうど今から100年前の
1864年の12月に、ジョン・
ラスキンが2回の講演をし

た。一つは「胡麻」という題で、読書について論じたものであり、もう一つは「百合」と題して、女子教育の問題を取り扱った。この二つの講演はその翌年の1865年に『胡麻と百合』という一冊の本として出版された。胡麻と百合とはまことに奇妙な取り合わせである。第2講の「百合」は、冒頭に「イザヤ書」35章の1節の聖句が引用されている。百合の花は女子教育を論ずる講演の標題としてはまことにふさわしい感じがする。これに反して、第1講の「胡麻」はなんとなく珍らしく聞える。しかし、これは『アラビア千夜一夜物語』のなかの「アリババと40人の盗賊」に出てくる呪文から取ったものである。

むかし、アリババという貧しい人がいたが、ある日のこと、3匹の馬を連れて山へ行くと、たきぎを取っていた。すると、そこへ盗賊の一隊がやって来た。彼は驚いて、繁った木の上ののぼり、ひそかに様子をうかがっていると、彼らのなかの大將らしいものが、大きな岩の前に立って、「開け！胡麻」と叫んだ。そうすると岩は音もなく開いて大きな入口となった。彼らはその洞穴のなかにはいって行き、しばらくして出て来た。彼らが立ち去ったあとで、アリババは大きな岩の前に立って、こころみに「開け！胡麻」と呪文を唱えて見た。そうすると大きな岩が開いて入口となった。なかにはいると、そこには金銀さんご宝の山があった。

この物語は、多くの人の子供の頃読んで胸をどろかせた経験があるにちがいない。この呪文をラスキンは盗賊の洞穴でなくて、書物の世界に応用したのである。

「開け！胡麻」と唱えたら、そこに驚くべき学問と知識の宝庫が開かれるというのである。しかも、この講演が、さる図書館の基金募集のために行なわれたものであ

ることを考えると、この胡麻という標題がいかに似つかわしいものと考えられる。

トマス・カーライルは言った。全人類が今までに為してきたこと、考えてきたこと、獲得してきたもの、いな、全人類の存在そのものは、すべて書物のなかに保存されている。この経験と知識と学問の集積は、そのほんの一部をうかがうだけでも生涯を必要とするであろう。大学4年はつかの間である。したがって、あることは、どの本を見ればわかるということがわかるだけでも結構だと言われている。今日では、ただ、「開け！胡麻」と呪文を唱えても、別に扉はあかない。むしろ、静かに書物を開いて、学問研究の世界の瞥見でも得ようではないか。

告知板

- 新入学生の利用開始 4月11日(土) 新入学生に対する図書館のオリエンテーション終了後から利用できます。
- 辞書・雑誌などの移動 この春休みに次のとおり移動を行ないました。
一般教養関係辞書→3階一般教養閲覧室へ
その他の一般辞書→1階旧雑誌室へ
雑誌・資料→旧辞書室へ
新聞縮刷版→閉架書庫へ
目録ケース→1階ロビーへ
- 北九州市の電話番号簿の備え付け 事務室に備えていますので、利用希望者はお申し出下さい。東京都、大阪市の電話番号簿もあります。
- 春休み長期貸出の返却期限 4月17日(金)まで。

西南学院大学図書館沿革

大正10年4月 西南学院高等学部開校
 12年4月 西南学院図書館創設、仮図書室設置
 13年12月 高等学部本館に図書館附属書庫を増築
 図書館原簿登録開始、西南学院図書館蔵書目録(図書分類法)による分類開始
 昭和7年4月 図書室を中学部校舎に移転
 8年4月 小野兵衛教授図書館長(初代)就任
 13年4月 西南学院図書館規定(閲覧規則)施行
 14年4月 坂本重武教授図書館長就任
 17年3月 図書館附属書庫(赤煉瓦)竣工(20周年記念事業)
 17年10月 “ 閲覧室竣工(20周年記念事業)
 23年9月 八田薫教授図書館長就任
 24年1月 日本十進分類法第5版採用による分類
 切替開始、著者名・分類のカード目録
 切替開始
 24年4月 西南学院大学開学、図書館委員会発足
 24年9月 中沢慶之助教授図書館長就任
 24年11月 『図書館報』創刊
 25年1月 『増加図書目録』創刊
 25年7月 九州大学第1回司書講習に職員参加

昭和27年1月 中村弘教授図書館長就任、神学科図書
 室独立
 27年3月 大学新校舎竣工、新館2階にリザーブ
 ド・ブック・ルーム設置
 29年10月 現図書館・学術研究所竣工(図書館延
 1285㎡、研究所延 660㎡)
 開架制度採用、諸手続・制度切替
 31年1月 里見安吉教授図書館長就任
 31年4月 西南学院図書館閲覧規則(開架制度に
 よる改正)施行
 33年1月 船越栄一教授図書館長就任
 34年4月 西南学院図書館規程(組織規定)施行
 35年1月 木村毅教授図書館長就任
 35年4月 学院図書館を大学図書館に改組、大学
 図書館規程・学生利用規則・教職員利
 用規則・特別利用者規則施行
 35年7月 司書・司書補・司書教諭講習実施
 39年1月 坂本重武教授図書館長就任

施設と所蔵資料の概要

< 施設 >

建坪 434㎡ 延坪 1285㎡ (鉄筋3階建)
 1階 雑誌室 53㎡ 32席
 一般辞書室 15㎡ 8席(500冊収容)
 目録室 28㎡
 その他、事務室(3,000冊収容)・携帯品預
 かり所・職員休憩室・手洗い所など
 2階 商経閲覧室 187㎡ 60席(18,500冊収容)
 閉架書庫兼教授閲覧室 109㎡ 14席
 (11,000冊収容)
 閉架書庫 63㎡ (12,000冊収容)
 休憩室 15㎡ 8席
 3階 一般教養閲覧室 187㎡ 60席(18,500冊収容)
 英文学閲覧室 118㎡ 34席(7,500冊収容)
 閉架書庫 63㎡(6,000冊および資料多数収容)
 休憩室 15㎡ 8席

< 所蔵資料 >

図書 和漢書 57,500冊 洋書 20,500冊 計78,000冊
 雑誌 450種 視聴覚資料 172点
 大学紀要・論集 600種 新聞 35種

< 特殊文庫 >

波多野文庫 和漢書 706冊 洋書 1,389冊 計 2,095冊
 故波多野培根教授の蔵書で、哲学・宗教
 ・歴史に関する原書が大部分を占める。
 閉架書庫に納められている。
 柳原文庫 和漢書 437冊 洋書 97冊 計 534冊
 故柳原舜祐教授の蔵書で、哲学・教育学
 ・倫理学関係が多い。一般教養閲覧室に
 並んでいる。
 村田文庫 和漢書 82冊 洋書 97冊 計 179冊
 故村田秀雄教授の蔵書で、英文学関係が
 多い。英文学閲覧室に並んでいる。
 藤井文庫 和漢書 295冊 洋書 199冊 計 494冊
 故藤井泰一郎教授の蔵書で、英文学書を
 主とし、英文学閲覧室に配列されている。
 小田文庫 和漢書 505冊 洋書 18冊 計 523冊
 故小田嘉一郎講師の蔵書、法律書を主と
 し、商経閲覧室に並ぶ。
 古賀文庫 和漢書 858冊 洋書 52冊 計 910冊
 古賀武夫現院長の寄贈書、法律関係が多
 く、商経閲覧室に並ぶ。

図書館案内のページ

▶ 開館時間

平常	8.30 ~ 19.00
試験期	8.30 ~ 21.00
休暇中	8.30 ~ 17.00

▶ 休館日

日曜日・国民の祝日・学院創立記念日・年末年始・
その他特に定める日(その都度掲示する。)

▶ 閉館

第月每一水曜日は午後1時閉館
チャペル時間中閉鎖

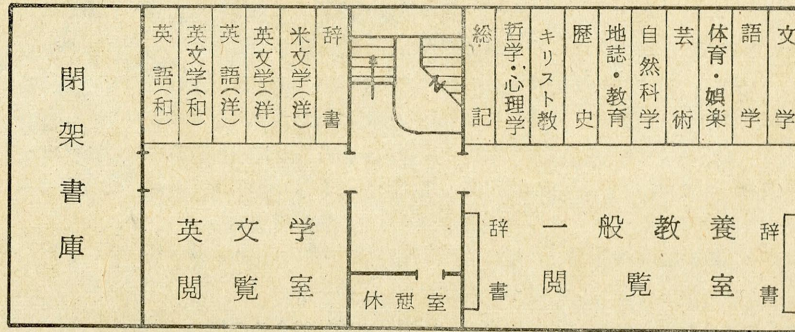
▶ 携帯品預かり

カバン・オーバー・雨傘その他携帯品は全て携帯品預かり所に預けること。

▶ 館内規律

- 1 図書は丁寧に取扱ひ、無断持出・切取・汚損などをしないこと。
- 2 館内では特に静粛にし、音読・談話・集会等他人の妨げとなる行為のないよう注意すること。
- 3 休憩室以外では飲食・喫煙をしないこと。

図書館案内図



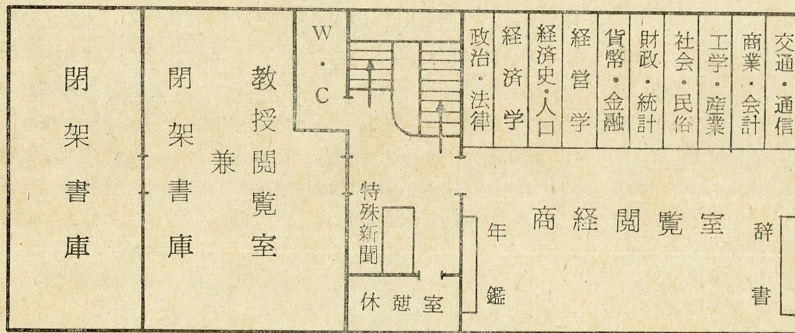
3階

一般教養閲覧室

100 哲学	140 心理学
190 キリスト教	
200 歴史	370 教育
400 自然科学	
700 芸術	780 体育
800 語学	900 文学

英文学閲覧室

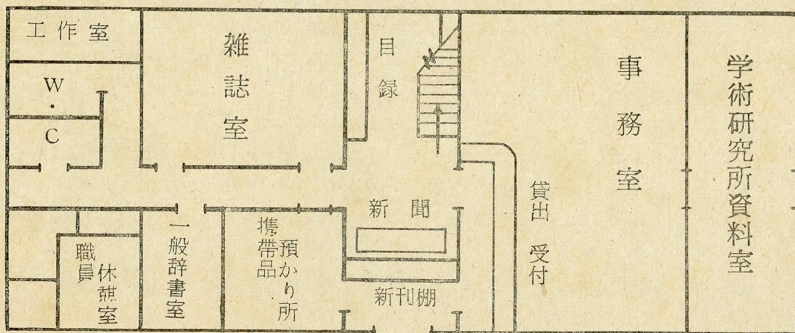
830 英語	930 英文学
--------	---------



2階

商経閲覧室

310 政治	320 法律
330 経済	331 経済学
332 経済史	335 経営学
337 貨幣	340 財政
350 統計	360 社会
380 民俗	500 工学
610 農業	670 商業
679 会計	680 交通



1階

一般辞書室

030 百科辞典
059 一般年鑑
813 国語辞書
833 英語辞書
843 独語辞書
853 仏語辞書

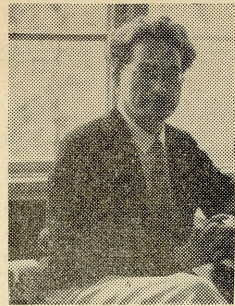
事務室

090 岩波文庫・新書など

■ 学院図書館回顧録（その7）

図書館の回顧

里見安吉



私は昭和31年1月から2か年間図書館長の任にあった。私の任期中にはさして革新的な業績はなかった。私は前館長中村弘教授の多難な新館建設時代のあとを引受けて拡充につとめる使命があったが、予算引締の件があって思うにまかせなかった。

当時の職員は山下和夫、杉本善夫、伊藤治生、坂口のぶ、村井泰彦、白石初子、山藤ハルヨ、庄野美和子、作業に鴻江イノその他アルバイト学生に岡崎君、三上君などというのがあった。村井泰彦君の前任は渡辺道子さんという職員がいたが、亡くなられてそのあと新聞で公募したところ、驚くべき多数の応募者があり、やむを得ず大きな教室に誘導して試験をした上、村井泰彦君が選ばれた。

毎年米国から若干の寄附金が図書購入の費用として送られていたが、昭和31年度にはそれが途絶えたので甚だ困惑した。然しその翌年32年には、米国の篤志家Mrs. Eppsの寄附金が達し、英文学の方面ではスティブソン全集が揃い、商学部では明治前期財政経済史料集成全21巻が揃い、辞典では当時発刊されたコリア百科事典も購入出来た。シェークスピアやミルトンのような古典の研究参考書類は手広く蒐集につとめた。

私の任期中に1階に一般教養閲覧室があったが、それを上に移し、1階は新聞雑誌および辞書類の閲覧に限り、また学術研究会からの要望もあって、1階の一区画を学術研究会専用図書室として提供した。その室は研究室からは勿論、図書館側からも出入口はあったが、管理はもっぱら研究室に属し、図書館側から学生の自由出入は許されない室であった。また西南学院史料蒐集のために小さな一室を提供した。藤井泰一郎教授が委員長で計画していたが、同氏の没後、史料はどうなったことであろう。31年度の図書の増加冊数は、3,619冊であった。当

時の総冊数は神学館蔵書を除いて5万1千冊であった。微々たる図書館ではあるが、必要な研究書類は一応完備して、小じんまりした極めて心地のよい図書館であった。

私にとっては、専門学校当時、戦後の荒廃からようやく西南が躍進し始めた頃の教授として、この図書館の一利用者として、思い出の深いものである。今の高校の片端にある赤煉瓦の2階建が書庫で暖房設備のない閲覧室は極めて閑散なものであった。八田教授が図書館長であった頃、私も図書委員として協議に参席した。中沢教授が館長の時代も、引続き図書委員をつとめた。中沢館長は館員の精神的な融和厚生にも意を用いられたので、私も時には茶菓の饗応に招かれ感話をさせられた。今日の自由接架式に切り換えるときには教授会でも甲論乙駁なかなか決し難い問題であったが、自由接架に踏み切ったのは大進歩であった。然し管理上の悩みは解消したわけではなく、人件費がそのために減少する筈だという理由で予算をけずられるのには困った。

図書館が大学図書館協議会その他の横のつながりがある、大学の重要な機関として意識されて来たのは戦後のことであったが、大学に附属した盲腸のように考えられた時代は遠く過ぎ去ったわけである。それ故ある協議会で大学附属図書館という名称がすでに旧式で、大学図書館と呼ぶべきだという提唱があったが、名称はとにかくとして実質においては大学全体の重要な研究機関として大学当局も図書館員も質的な向上を目ざして前進すべきであろう。

(38.1.7)

里見安吉先生は、本年1月15日、病のため昇天されました。生前に頂いたこの回顧文を、先生の在りし日を偲びつつ、遺稿として掲載します。

ニュース

News

ニュース

<図書館委員会>

昭和39年2月17日(月)午前10時30分から図書館で開かれ、昭和39年度図書費配分について審議がなされた。

<図書館会議出席>

福岡県大学図書館協議会研究総会
昭和39年2月28日(金)於久留米大学
図書館統計・事務能率化・指定図書
制度について研究報告がなされた。
坂口出席。

<図書館長の更迭>

退任 商学部教授 木村 毅
38.12.31付
新任 文学部教授 坂本重武
39.1.1付

<図書館委員名簿>

教養部 宮本 堯夫
神学科 関谷 定夫
英文学科 八木 幹
経済学科 横溝 軌一

商学科 市村 昭三
児童教育科 高橋 さやか
<職員名簿>

館長 坂本 重武
司書長 山下 和夫
係長 杉本善夫 係長 伊藤治生
司書 松田敬一郎 司書補坂口のぶ
職員 豊岡和子 島上昌子
品川寿子 森山碩子